

道徳の時間のための 「情報モラル自作資料集」の作成と活用

—— 生徒の道徳的価値の自覚を深める指導の充実を目指して ——

長期研修員 栗原 猛

《研究の概要》

本研究は、道徳の時間の特質である道徳的価値の自覚を深める指導の充実を目指した。そこで、情報モラルに関わる内容を扱う「読み物資料・提示資料」、指導のポイントを示す「教師用指導資料」、生徒が自分の感じ方、考え方を整理する「ワークシート」からなる道徳の時間のための「情報モラル自作資料集」を作成した。研究協力校においては、本資料集を活用し、各学年の道徳の時間で実践を行った。情報モラルに関わる道徳的価値について、自分との関わりで捉え、これまでの自分自身を振り返り、これからの生活に生かしていこうとする道徳的価値の自覚を深める指導の充実のために、本資料集の活用が有効であることを明らかにした。

キーワード 【道徳 情報モラル教育 読み物資料・提示資料 教師用指導資料】

群馬県総合教育センター

分類記号：G10-01 平成27年度 255集

I 主題設定の理由

中学校学習指導要領解説道徳編では、道徳の時間の目標として、「道徳的価値及びそれに基づいた人間としての生き方についての自覚を深め、道徳的実践力を育成するものとする」と示されている。道徳の時間の目標の達成を図り、生徒に充実感をもたらすような指導を行うためには、生徒の実態に合った魅力的な教材と、その効果的な活用が重要である。また、道徳の時間に生かす教材の要件の一つには、「エ 体験活動や日常生活を振り返り、道徳的価値の意義や大切さを考えることができるもの」とあり、生徒が教材の内容を自分事として捉えるためにも、日常生活で起こり得るできごとを扱うことが大切である。

生徒の日常生活に目を向けると、社会の急速な情報化を受けて、コンピュータやスマートフォン、ゲーム機や携帯型音楽プレーヤーなどが普及し、情報の収集や表現、発信が容易にできるようになってきている。しかし、容易にできるがゆえに、情報モラルに関連した問題が増えてきている。それらの多くは、不適切な書き込みやネットいじめ、著作権法違反や肖像権の侵害など、相手とのやり取りで起こる問題で、生徒がインターネットの特性である公開性や記録性を十分に理解していないために起こっている。インターネット上では、自分のことを明らかにしなくても情報のやりとりができるという匿名性がある。そのため、きまりを守ることや顔が見えない相手への配慮がより大切となっている。道徳の時間において、生徒の日常生活に密接している情報モラルに関する題材を生かした指導が、ますます必要になっていると考える。

中学校学習指導要領解説道徳編には、道徳の時間においては、「生徒の発達の段階や特性等を考慮し、第2に示す道徳の内容との関連を踏まえて、情報モラルに関する指導に留意すること」と記載されている。他者への思いやりや礼儀の問題、友人関係の問題、情報を生かすときの法やきまりの遵守に伴う問題などを関連させ、情報モラルに関する指導を行うように示されている。情報モラルに関する指導は、学校の教育活動全体で取り組むべきものであり、道徳の時間においても同様に配慮していかなくてはならない。

しかし、中学校において、道徳の時間の中で情報モラルを扱った授業の例は少ない。研究協力校で行ったアンケートでは、過去1年間に情報モラルを扱った道徳の授業を実施した教師は27%であった。その内容は、第1学年でインターネット上のコミュニケーションの問題について話し合うというものであった。道徳の時間に情報モラルを扱った授業をすることに対して、半数近くの教師が「抵抗を感じている」と回答している。その理由として、「情報モラルを盛り込んだ、適切な資料が見付からない」「資料があっても、取り上げている情報技術が古く、生徒の実態と合っていない」「情報モラルについて様々な問題がありすぎて、どこから手を付けていいかわからない」「技術がどんどん新しくなっていて、自分よりも生徒の方が詳しい」「道徳の時間なのに、やってはいけないことを話し合う特別活動のようになってしまう」などが挙げられている。

また、道徳の読み物資料の数を調べてみると、中学校道徳副読本（第1学年～第3学年）27冊や文部科学省の中学校道徳読み物資料集と「私たちの道徳」には、合計で989編の資料が掲載されている。しかし、その中で情報モラルを扱ったものは25編であり、全資料の3%にも満たない。

これらの課題から、本研究では情報モラルを扱った読み物資料・提示資料、指導のポイントを示した教師用指導資料、ワークシートを作成し、道徳の時間のための「情報モラル自作資料集」とする。その効果的な活用によって、生徒の情報モラルに関わる道徳的価値の自覚を深めるための指導の充実を生かしていけると考え、本主題を設定した。

II 研究のねらい

中学校道徳の時間において、情報モラルに関わる道徳的価値の自覚を深める指導の充実のために、生徒のインターネットの利用実態に合った「情報モラル自作資料集」を作成し、活用することの有効性を明らかにする。

Ⅲ 研究の内容

1 基本的な考え方

道徳の時間において、道徳的価値の自覚を深める学習をしていくためには、教師がねらいとする道徳的価値を明確にすることと、生徒が自分との関わりで道徳的価値を理解し、考えを深めて学び合うことが大切であり、そのための適切な資料の選択は欠かせないものである。ねらいとする道徳的価値に関わる問題場面、状況が含まれているものを活用することが有効である。このことは、情報モラルに関する指導を道徳の時間に行う場合にも同様である。生徒の実態に合った情報モラルの問題を含んだ資料を使い、ねらいとする道徳的価値を理解し、多様な考えに触れながら自分との関わりで道徳的価値を捉える活動をする。特に情報モラルに留意した指導では、情報モラルに関わって自分自身を振り返ることが大切である。これらの学習活動によって、道徳的価値の自覚が深まっていくと考える。

情報モラルの指導と道徳の内容との関連や、道徳の内容と情報モラル教育との関わりなど、本研究の基本的な考え方について以下に示す。

(1) 道徳的価値の自覚を深める

本研究では、『道徳教育で大切なこと』（2013）赤堀博行 東洋館出版社に示されていることを参考に、「道徳的価値」を「人間としてよりよく生きる上で大切なこと」とし、道徳的価値の自覚を深めることを、「人間としてよりよく生きる上で大切なことを理解して、それを基に自分自身を見つめ、現在の自分の状況がどうなのかを明確に、より深く把握すること」と定義する。

(2) 情報モラルの指導と道徳の内容の関連

道徳には、四つの視点に分けて示した24の内容項目がある。しかし、「情報モラル」そのものの内容項目は示されていない。中学校学習指導要領解説道徳編には、道徳の内容との関連を、「ネット上の書き込みのすれ違いなど他者への思いやりや礼儀の問題及び友人関係の問題、情報を生かすときの法やきまりの遵守に伴う問題など」としている。このことから、本研究では、情報モラルの指導に関わる道徳の内容について、表1のように捉えた。

表1 情報モラルの指導に関連する道徳の内容

視 点	内容項目
2. 主として他の人とのかかわりに関すること	(1) 礼儀、適切な言動
	(2) 人間愛、思いやり
	(3) 友情・信頼
4. 主として集団や社会とのかかわりに関すること	(1) 遵法、社会の秩序と規律
	(2) 公德心

(3) 道徳の内容と情報モラル教育の内容との関わり

『すべての先生のための「情報モラル」指導実践キックオフガイド』（2007）日本教育工学振興会と、それを基に作成された『情報モラル教育実践ガイダンス』（2011）国立教育政策研究所では、情報モラル教育の内容を、図1に示すように2領域5分野に分けている。そして、『教育の情報化に関する手引』（2010）文部科学省では、道徳の四つの内容を挙げた上で、「情報モラルでは、ネットワークを介してこの『他の人』や『集団や社会』とかかわることとなる」としている。

このことから本研究では、道徳の内容の「2. 主に他の人とのかかわりに関すること」と「4. 主として集団や社会とのかかわりに関すること」に、情報モラル教育の内容である「情報社会の倫理」と「法の理解と遵守」を関連付けていく

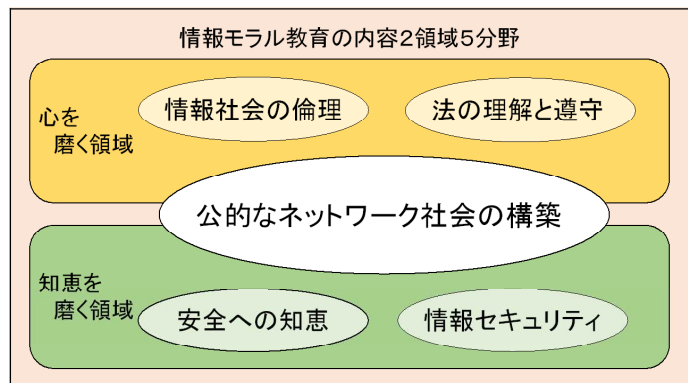


図1 情報モラル教育の内容（「情報モラル教育実践ガイダンス」を基に作成）

ものとする(図2)。情報モラル教育の「知恵を磨く領域」については、必要に応じて道德の時間の中で触れるようにし、詳しい内容については道德の時間以外の各教科等で扱うこととする。

これらの考えに基づいて、「情報モラル自作資料集」では、情報モラルに関する問題を身近に感じ、自分のこととして考えられる道德の時間のための資料となるようにする。また、教師が情報モラルの問題に留意した指導ができるように、道德の時間の学習指導過程や、情報モラルの知識を具体的に示す。そして、ワーク

シートでは、ねらいとする道德的価値に対する自分の感じ方や考え方を書いたり、自分自身を振り返ったりできるようにする。生徒のインターネットの利用実態に合った資料を活用し、情報モラル教育の内容を意識した道德の時間の学習をすることで、生徒の道德的価値の自覚を深める指導の充実を図りたいと考える。本研究を進めるに当たっての研究の構想を図3に示す。

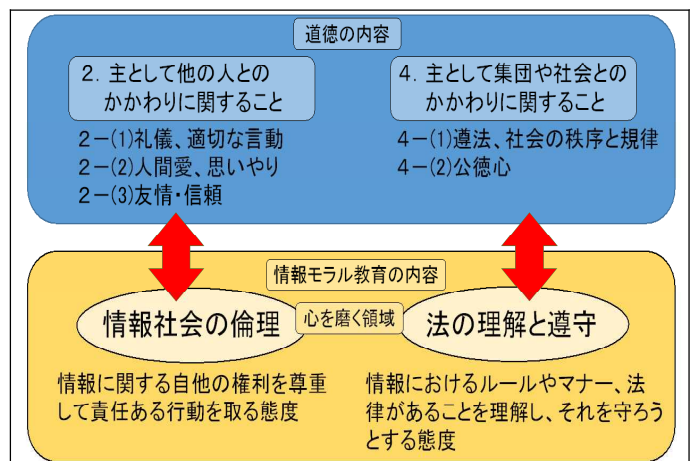


図2 道德の内容と情報モラル教育の内容との関わり

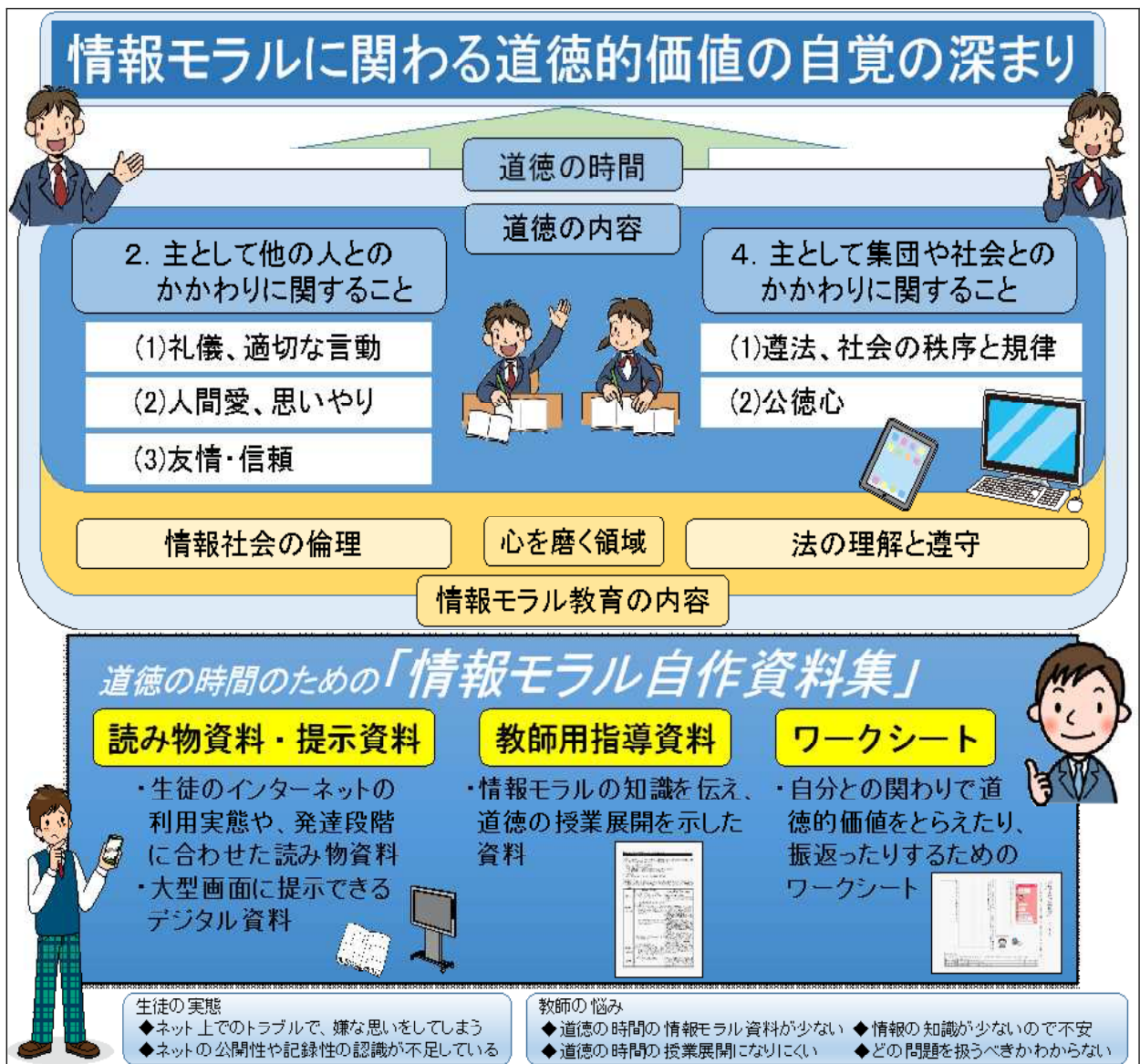


図3 研究構想図

2 教材の概要

(1) 道徳の時間のための「情報モラル自作資料集」の特徴

① 生徒が自分との関わりで考えられる教材

本教材は、生徒が自分との関わりで道徳的価値を捉えられるようにするために、情報モラルに関する題材を生かしたものである。インターネットの利用においての問題場面を含んだ読み物資料・提示資料や、その活用の仕方を示した教師用指導資料、ワークシートを作成し、道徳的価値を自分との関わりで捉えられるようにする。

② 道徳の内容と情報モラル教育の内容との関連

読み物資料・提示資料とその活用のための教師用指導資料は、ねらいとする道徳的価値に基づいて作成し、情報モラル教育の内容と関連付ける。情報モラル教育の知恵を磨く領域の内容は、資料の理解を深めるために、必要に応じて最小限伝えるようにする。

③ 中学校3年間で計画的に学習できる教材

道徳の時間に情報モラルに関する指導をするに当たって、中学校3年間で計画的に学習するために、ねらいとする道徳的価値や、読み物資料・提示資料で扱う内容を、各学年の実態に合わせて作成する。

(2) 道徳の時間のための「情報モラル自作資料集」の構成

本資料集は、三つの資料で構成されている。①ねらいとする道徳的価値に関わる問題場面が含まれている読み物資料と、プレゼンテーションソフトで作成した提示資料、②教師が読み物資料・提示資料を活用して授業をするための展開例や、情報モラルの知識や指導のポイントを示した教師用指導資料、③生徒が授業において道徳的価値を自分との関わりで捉えたり、自分自身を振り返ったりするための資料であるワークシートである。

(3) 道徳の時間のための「情報モラル自作資料集」の内容

① 読み物資料・提示資料

読み物資料・提示資料は、生徒の実態や発達段階に合わせた読み物資料と、大型画面に提示できるデジタル提示資料となっている（図4）。ねらいとする道徳的価値に関わる問題場面や状況が含まれており、情報社会の課題を題材とすることで、生徒にとって身近なできごとと感じられるようにしている。実態に合わせて、生徒がよく利用している情報技術を扱い、読み物資料の冒頭では、インターネットを利用している主人公の気持ちを取り上げ、共感できるようにしている。また、スマートフォンの無料通話アプリなどを使ったメッセージのやりとりの場面では、アプリ画面をイメ



図4 読み物資料・提示資料の例（第3学年の一部）

ージした提示資料で示すことによって、生徒が身近なできごととして捉えられるようにしている。
作成した読み物資料・提示資料の一覧を、表2に示す。

表2 読み物資料・提示資料の一覧 (●：本時のねらい ★：情報モラル指導モデルカリキュラムの目標)

学年	資料名	主題名 内容項目	資料の内容
第一学年	SNSのできごと (読み物資料・提示資料)	友情を深める 2-(3)友情・信頼	・仲の良い2人だったが、SNSでやりとりをしているうちに、些細なことで感情が行き違ってしまう。 ●友情の尊さを理解し、互いに相手の立場になって考えて行動し、励まし合って向上しようとする態度を育てる。 ★情報社会における自分の責任や義務について考え、行動する。
	写真の行方 (読み物資料)	きまりを守る 4-(1)遵法、社会秩序と規律	・僕は写真を撮ってSNS上で見せ合っていたが、きまりを守っていたかどうか、急に不安になってしまう。 ●法やきまりは、自分たちの権利を守るためにあることを理解し、それを守ろうとする態度を育てる。 ★違法な行為とは何かを知り、違法だと分かった行動は絶対に行わない。 ★情報の保護や取扱いに関する基本的なルールや法律の内容を知る。
第二学年	ラッキーなはずなのに (読み物資料)	法やきまりの意義 4-(1)遵法、社会秩序と規律	・ある本を、違法にアップロードしたサイトを見つけた僕だが、閲覧しようかどうか迷ってしまう。 ●法やきまりの意義を理解し、よりよい社会の実現に向けて、自分に課せられた義務を確実に果たそうとする態度を育てる。 ★違法な行為とは何かを知り、違法だと分かった行動は絶対に行わない。 ★情報の保護や取扱いに関する基本的なルールや法律の内容を知る。
	あのときのこと (読み物資料・提示資料)	相手の立場で 2-(2)人間愛、思いやり	・私はB子の悪口で盛り上がる書き込みを見つけ、何とか止めた。B子に伝えた方がいいのか考えてしまう。 ●他の人々に対して、相手の立場に立って思いやりの心を持って接しようとする態度を育てる。 ★情報社会における自分の責任や義務について考え、行動する。 ★情報の保護や取扱いに関する基本的なルールや法律の内容を知る。
第三学年	これでよかったのかな？ (読み物資料・提示資料)	思いやる心 2-(2)人間愛、思いやり	・SNSで中傷された「たかし」は、やり方を工夫して仕返しを成功させるが、なぜか、スッキリしなかった。 ●他の人との関わりについて、相手の立場に立って物事を捉えることの難しさと大切さを理解し、誰に対しても思いやりの心を持って接していこうとする態度を育てる。 ★情報社会における自分の責任や義務について考え、行動する。 ★個人の権利(人格権、肖像権など)を尊重する。
	みんな困っています (読み物資料・提示資料)	よりよい社会を目指して 4-(2)公德心、社会連帯の自覚	・ネットワーク社会で周囲を不快にしまわれないように、私は自分にできることを考える。 ●公德心を大切に、より望ましいネットワーク社会を実現しようとする態度を育てる。 ★違法な行為とは何かを知り、違法だと分かった行動は絶対に行わない。 ★情報の保護や取扱いに関する基本的なルールや法律の内容を知る。

② 教師用指導資料

教師用指導資料は、教師が読み物資料・提示資料を活用して授業をするための資料である。授業者の使いやすさを考え、A4版1枚で作成した。図5に示したように、ねらいとする道徳的価値を視点として、情報モラルの問題に留意した指導となるように、「ねらい」、「情報モラル教育との関わり」、「展開例」などを掲載した。作成に当たっては、次の五つの工夫をした。

(a)情報モラル指導モデルカリキュラムの目標との関わり	(c)生徒に伝える情報モラルの知識
(b)価値理解、人間理解、他者理解の位置付け	(d)展開後段の学習活動
	(e)終末の学習活動

(a)「情報モラル指導モデルカリキュラムの目標との関わり」を示すことによって、ねらいとする道徳的価値を視点として、情報モラルに関わる内容を意識して指導することができるものとなっている。道徳の時間の学習指導過程を示した展開例では、道徳的価値について理解するために、展開前段の中で(b)「価値理解、人間理解、他者理解」をどこで行うかを示している。また、(c)「生徒に伝える情報モラルの知識」を明記し、資料の内容の理解を深めたり、ネット上のルールやきまり、必要な知識の理解ができたりするようになっている。(d)「展開後段の学習活動」では、「これまでの自分はどうだったのか。これからはどうしていきたいのか」といった、自分との関わりで道徳的価値を捉え、課題を培うために振り返りをするが、本教材では、情報モラルに関わることで自分自身を振り返るようにしている。そして、(e)「終末の学習活動」では、「私たちの道徳」を活用し、ねらいとする道徳的価値について、情報モラルに関わることから生活全般にまで広げて思いや考えをまとめたり温めたりするようにしている。

主題名 思いやる心(内容項目2-②) 人間愛、思いやり
「これでもよかったのかな?」

- ねらい
他の人との関わりについて、相手の立場に立って対しても思いやりの心を持って接していこうとする
- 情報モラル指導モデルカリキュラムの目標との関わり
心を磨く領域 情報社会の倫理
・ a4-1 情報社会における自分の責任や義務について考え、行動する
・ b4-1 個人の権利(人格権、肖像権など)を尊重する
- 活用する資料
資料名「これでもよかったのかな? (読み物資料、提示資料)」
- 資料のあらすじ
無料通話アプリを使っていた主人公の「たかし」は、名前は伏せてあるが明らかに本人とわかるやり方で中傷されてしまう。なんとか相手を困らせたいと考えたたかしは、ネットのルールの中で方法を考え仕返しを成功させる。お礼を言いに来る女子もいたが、たかしの気持ちはすっきりしなかった。

5 展開例

時間	学習活動(主な発問)	指導のポイント(太字は情報モラルに関わる内容)
導入	1 「思いやり」について考える。	の方向付けを図る。アンケートを取って集計結果をどうでスムーズに進められるよう
展開前段	20分 ○無料アプリでやりとりをしていた四人について、思いやりがないと感じるのは、それぞれどんなところだろうかと、四人組になって役割演技をし、考えよう。	○台詞のみの役割演技によって、思いやりを持つことの大きさ(価値理解)、自分が怒っている時には、相手の気持ちを考えられない弱さ(人間理解、他者理解)に目を向けさせる。 ○A子だけでなく四人全員のトークは、ネット上のマナー違反であることを確認する。 ○公開が前提であるインターネット上のサイトにおいて、リンクを貼ることは、情報にたどり着けるようにしただけなので、著作権の侵害にはならない。し
展開後段	10分 3 「自分自身を振り返る。」 ○ネットワーク上でのコミュニケーションにおいて、思いやりがない不適切な書き込みを防ぐためには、どのようなことが大切だと感じるか。これらも振り返りながら考えよう。	目に負えない相手の立場に立って関わっていくことの大切さを理解し、よりよいネットワーク上でのコミュニケーションをとろうとする気持ちについて振り返らせる。
終末	5分 4 『私たちの道徳』を読む。	○『私たちの道徳』54ページを読み、思

①たかしがすっきりしてだと思おうか。

図5 指導のポイントを示した教師用指導資料の例(第3学年)

③ ワークシート

ワークシートには、次の四つの欄を設ける。

(a)展開前段において、中心発問に対して自分の感じ方や考え方を書く欄
(b)展開後段において、ねらいとする道徳的価値と自分自身との関わりについて振り返る欄(ただし、情報モラルに関わって)
(c)授業の終わりで、本時の学習に対する意欲や態度について自己評価をする欄
(d)家庭からの意見・感想を書く欄

自分の考えを書く欄を二つにしたことで、1時間の学習の中で書く活動が絞り込まれ、時間をかけて考えられるようになる。そして、書く活動によって、ねらいとする道徳的価値についての自分

の感じ方や考え方をまとめたり、ねらいとする道徳的価値を視点として情報モラルに関わる内容で自分自身を振り返ったりできる。文章化されたことで自分の考えが明確になり、客観的に見られるようになる。その後の伝え合う活動では、文章化された友達の考えと比較することで、相違点がはっきりし、他者理解につなげることができる。また、終末の自己評価によって、本時の学習に対する意欲や態度について振り返り、自己の課題の気付きにもつなげることができる。第3学年のワークシートの例について、図6に示す。

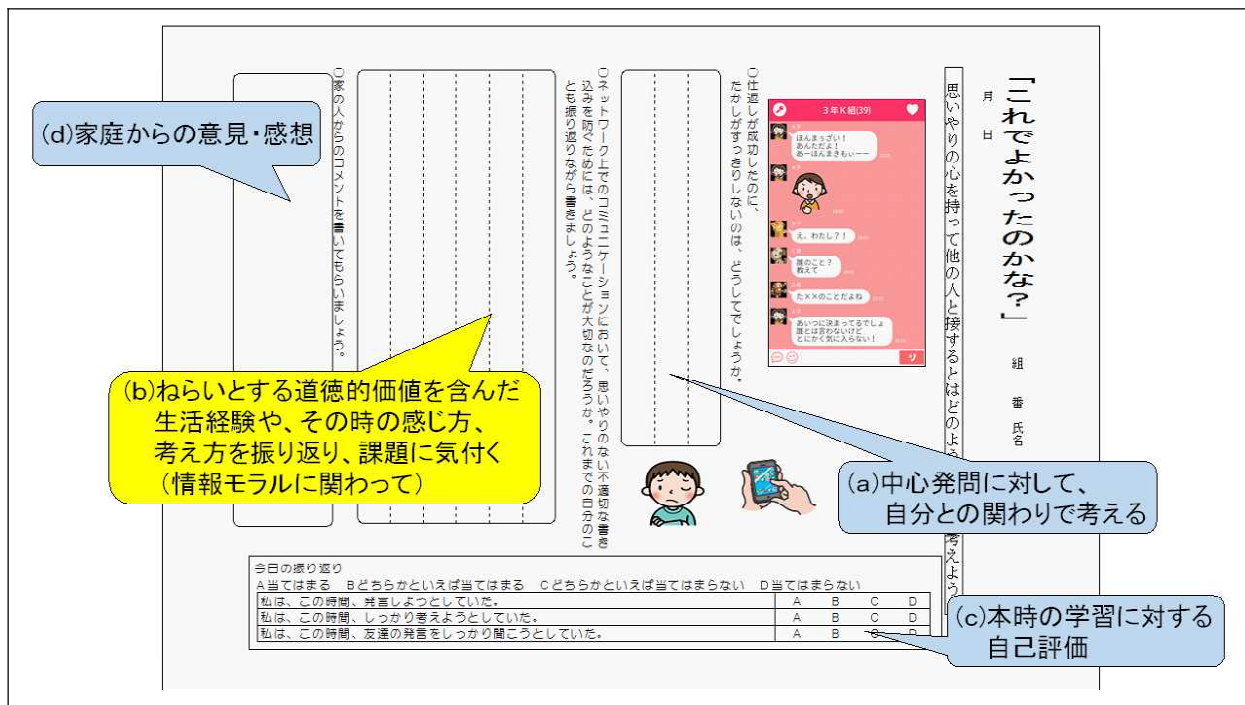


図6 ワークシートの例（第3学年）

IV 研究の計画と方法

1 授業実践の概要

(1) 授業実践〔1〕

対象	研究協力校 中学校第2学年 193名 5クラス
実践期間	平成27年10月19日～10月23日
主題名	法やきまりの意義 「内容項目4－(1)遵法、社会の秩序と規律」
資料名	「ラッキーなはずなのに」（読み物資料）

(2) 授業実践〔2〕

対象	研究協力校 中学校第3学年 160名 4クラス
実践期間	平成27年10月19日～10月23日
主題名	思いやる心 「内容項目2－(2)人間愛、思いやり」
資料名	「これでよかったのかな？」（読み物資料・提示資料）

2 検証計画

検証の視点	検証の方法
「情報モラル自作資料集」を活用した授業によって、生徒の道徳的価値の自覚が深まったか。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒のワークシートへの記述 生徒のワークシートの自己評価 実践前後での生徒への質問紙調査
「情報モラル自作資料集」を活用した授業によって、道徳的価値の自覚を深める指導の充実が図れたか。	<ul style="list-style-type: none"> 研究協力者への聞き取り

3 実践

(1) 授業実践〔1〕 第2学年

主題名 法やきまりの意義（内容項目4－(1) 遵法、社会の秩序と規律）	
資料名 「ラッキーなはずなのに」（読み物資料）	
実践期間 平成27年10月19日～10月23日	
ねらい 法やきまりの意義を理解し、よりよい社会の実現に向けて、自分に課せられた義務を確実に果たそうとする態度を育てる。	
主な学習活動 ○ 主な発問 ◎ 指導上の留意点	生徒の発言
1 本時の学習課題をつかむ。（5分） ○学校のきまりで禁止されていることを友達から誘われたらどうするかこれまでの生活を振り返る。 ◎生徒の意識や身近な問題について意見を出し合い、価値への方向付けを図る。	・学校のきまりだから絶対に守る。 ・学校のきまりだから多分守る。 ・学校のきまりだけど多分守らない。
2 資料「ラッキーなはずなのに」をもとに、登場人物と自分を重ね合わせながら話し合う。（25分） ○違法と知りながら、動画を投稿していたときの僕は、どんなことを考えていただろう。 ◎きまりは守らなくてはいけない（価値理解）と分かっているけど、自分に都合のいい解釈で、つい破ってしまう「僕」の弱さ（人間理解）に目を向けさせるようにする。 ◎ <u>動画共有サイト内での著作権に関わることについて、教師用指導資料を基に説明する。</u> ○A男から、動画の投稿をやめたことを伝えられたとき、「僕」はどんなことを考えただろう。 ◎A男の話聞いても、著作権について深く考えておらず、まだ自分もやめるとははっきり決めていない「僕」の弱さに目を向けさせるようにする。 ○閲覧するためのクリックがなかなかできないで迷っている僕はどんなことを考えていただろう。（中心発問） ◎違法サイトと分かっているけど、閲覧するだけなら大丈夫であろうという思いと作者の著作権を守らなくてはという思いを自分との関わりで考えさせ、価値理解、人間理解、他者理解を深められるようにする。 ◎迷っているのは、作者を応援したい自分を裏切りたくないからであることに気付けるようにする。	・みんなやっているから別にいいだろう。 ・みんなの評価が嬉しい。 ・別に迷惑はかかっていない。 ・削除されたら気を付けよう。 ・そうなんだ。 ・僕はやめないけどね。 ・なんでやめちゃうの？もったいない。 ・僕もやめた方がいいかもしれない。 ・クリックすると、作者の収入を奪ってしまうかも。 ・見たいけど、作者に申し訳ないし、よくないかもしれない。 ・A男は高いお金を払って買ったのに、自分がただで見てしまったのは申し訳ない。
3 本時で考えたことを振り返り、発表する。（15分） ○インターネット上の法律やきまりはなぜあるのか。また、それらについて、自分自身が守れているものや守れていないものを振り返って、どうすれば守れるようになるか、考えよう。 ◎インターネット利用に当たっての法やきまりとの関わり方について自分の生活を振り返り、今後の思いや課題を自覚できるようにする。	・みんなが気持ちよく過ごすためにあると思う。インターネット上の法律やきまりは、多分守っていると思う。嫌な気持ちになる人がいるということを考えて行動すれば、守れるようになると思う。
4 「私たちの道徳」を読む。（5分） ○「私たちの道徳」134ページを読む。 ◎権利や義務の側面から法やきまりを捉えさせ、義務を果たしていこうとする態度を育てたい。	

生徒のワークシートへの記述（展開後段）

- ・インターネット上のきまりは、私たちの人権を守るためのものだと思います。私は、あまりインターネットは使わないけれど、ルールは守ってきたつもりです。インターネットのルールは、一人一人がそれを破ると周りの人たちに、どんな影響があるのかを考えて、常識的に行動すればいいと思います。
- ・きまりがあるのは、法律などが無いと、人が嫌な思いをしたり、たいへんなことになってしまうからだと思う。私は、友達が嫌だと言った写真をタイムラインに出してしまったことがある。これからは許可を取ってからやるようにするなど、相手の気持ちを考えてきまりを守っていきたい。

(2) 授業実践〔2〕 第3学年

主題名 思いやり心 (内容項目2-(2) 人間愛、思いやり)	
資料名 「これでよかったのかな？」(読み物資料・提示資料)	
実践期間 平成27年10月19日～10月23日	
ねらい 他の人との関わりについて、相手の立場に立って物事を捉えることの難しさと大切さを理解し、誰に対しても思いやりの心を持って接していこうとする態度を育てる。	
主な学習活動 ○ 主な発問 ◎ 指導上の留意点	生徒の発言
1 本時の学習課題をつかむ。(5分) ○思いやりについてどう思っているか、これまでの生活を振り返る。 ◎生徒の意識や身近な問題について意見を出し合い、価値への方角付けを図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・誰に対しても思いやりの心を持って接した方がいい。 ・意地悪な人には、思いやりの心を持ちたくない。
2 資料「これでよかったのかな？」をもとに、登場人物と自分を重ね合わせながら話し合う。(25分) ○無料通話アプリでやりとりをしていた4人になって、トークを試みよう。思いやりがないと感じるのは、それぞれどんなところだろうか。 ◎四人のネット上のやりとりを台詞の役割演技にし、交代で演じることで、思いやりを持つことの大切さ(価値理解)と、自分が怒っているときには、傷つけることを言ってしまったり、つい相手に合わせてしまったりする弱さ(人間理解、他者理解)に目を向けさせるようにする。 ◎ <u>情報モラルとして、A子だけでなく4人全員の行為は思いやりがなく、ネット上のマナー違反であることを確認する。</u> ○たかしに声をかけてきたE子について、思いやりがないと感じるのはどこだろうか。 ◎人が困っている姿を見て喜んでしまう人間の弱さ(人間理解)にも気付けるようにする。 ◎ <u>教師指導資料を基に、たかしの行為は、ネット上のルールを守ってはいないものの、相手を傷つけるのが目的であり、マナー違反であることを説明する。</u>	<ul style="list-style-type: none"> ・A子は、名前を出してはいなくても、みんなが見るところでたかしの悪口を言っている。この場で発言する内容ではない。 ・B子は、A子を止めないで話を合わせている。聞き方も白々しい。 ・C男は名前を聞き出そうとしている。これでは話が続いてしまう。トークに参加していても知りたくない人もいるはず。 ・D男は名前を伏せながらも、みんなに分かるようにしている。 ・嫌な思いをしているA子を見て喜んでるところ。 ・わざわざたかしに礼を言っているところ。 ・結局は陰口を言っている。
3 本時で考えたことを振り返り、発表する。(10分) ○ネットワーク上でのコミュニケーションにおいて、思いやりのない不適切な書き込みを防ぐためには、どのようなことが大切だろうか。これまでの自分のことも振り返りながら考えよう。 ◎目に見えない相手の立場に立って関わっていくことの大切さを理解し、よりよいネットワーク上でのコミュニケーションをとろうとする気持ちについて振り返られるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・ネット上だと本人には言えないことでも普通に書き込めてしまう。今までも時々やっちゃってしまっていたので、書き込む前に一度冷静になって、相手の立場になってから発言する。そして発言に責任を持つのが大切だと思った。
4 「私たちの道徳」を読む。(5分) ○「私たちの道徳」54ページを読む。 ◎思いやりは、単なる哀れみや自己満足とはちがうことを捉えさせ、相手の立場に立って関わっていこうとする態度を育てたい。	

生徒のワークシートへの記述(展開後段)

- ・ネット上だと本人には言えないことも普通に書き込めてしまう。今まで自分も時々やっちゃってしまっていたので書き込む前に一度冷静になって、相手の立場になってから発言する。そして、発言に責任を持つのが大切だと思った。
- ・LINEなどでおもしろい雰囲気になって、調子に乗ってトークしてしまったことがあった。不適切な書き込みを防ぐには、相手の気持ちはもちろん、その場の雰囲気などに流されすぎないで、気配りをしてトーク等をすることが大切だと思う。

V 研究の結果と考察

1 「情報モラル自作資料集」を作成し、中学校道徳の時間に活用したことで、生徒の道徳的価値の自覚が深まったか。

(1) ワークシートの記述から

生徒のワークシートの記述から、「自分の興味のあるアニメの動画は、公式のものではないと分かっているけど、主人公のように深く考えずに見ていた」（第2学年）「画面で見たみたいに、自分も SNSで相手を嫌な気持ちにさせたことがあるので、A子やたかしの気持ちがよく分かります」（第3学年）「自分は、今日の主人公よりもひどいことをしてしまった」（第3学年）のように、動画共有サイトや SNSを扱った読み物資料の中のできごとを、自分事として捉えて考えている様子が見られた。そして、「インターネット上のきまりは、犯罪や個人情報などが広まってしまったり、人が頑張って作った作品などが簡単に見られてしまったり、侮辱されたりしてしまうのを防ぐためにはあると思います。私は、年齢制限などがかかっているようなものは閲覧していないし、写真なども勝手に載せないようにしています。一人一人がよくないことなどを意識したり、相手の立場を想像したりできるようにすれば、みんなできまりは守っていけると思いました」（第2学年）「ネット上だと本人には直接言えないことも普通書き込めてしまう。今までも時々やっちゃってましたので、嫌な思いをした人がいたと思う。書き込む前に一度冷静になって、相手の立場になってから発言する。そして、発言に責任を持つのが大切だと思った」（第3学年）など、道徳的価値を自覚していると考えられる記述が見られた（図7）。このように道徳的価値を理解し、自分自身を振り返り、今後の生活に生かしていこうとする記述は、第2学年で全体の79.4%、第3学年で68.8%見られた。また、他の多くの生徒も、道徳的価値を理解しているだけでなく、今後の生活に生かそうとする記述や、道徳的価値を視点として自己を見つめている記述をしていた。記述内容は十分でなくとも、自分の課題を明確にしたり、自分との関わりで道徳的価値を捉えたりするなど、自己理解を深めていると考えられる。

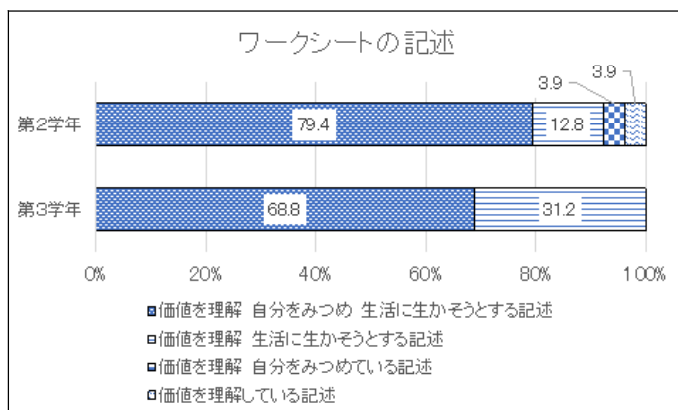


図7 ワークシートの記述

(2) ワークシートの自己評価から

学習に対する関心・意欲・態度の自己評価では、「発言しようとしていた」「しっかり考えようとしていた」「友達の意見をしっかり聞こうとしていた」について、A：当てはまる、B：どちらかといえば当てはまる、C：どちらかといえば当てはまらない、D：当てはまらないで行った。「しっかり考えようとしていた」「友達の意見をしっかり聞こうとしていた」について、第2学年と第3学年のほぼ全員が、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えていた（図8）。生徒たちは、道徳的価値の自覚を深めるために必要な、自分の考えを持って、友達の考えや感じ方と比較するということに、意欲的に取り組んでいたと考える。

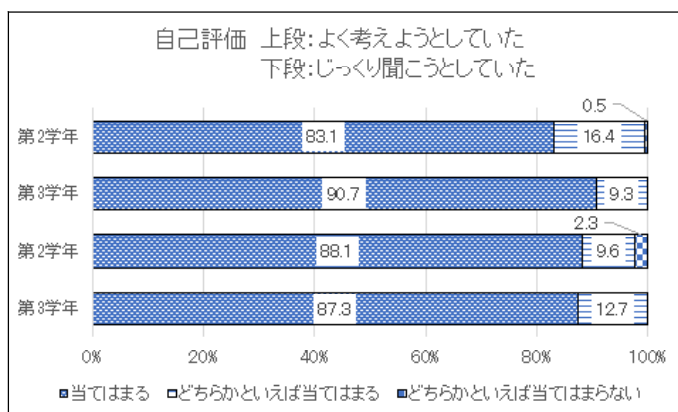


図8 生徒の自己評価

(3) 授業前後の質問紙調査の結果から

授業実践の道徳的価値に関わる意識について、授業前と授業後で調査をした。生徒の回答「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」「どちらかといえば当てはまらない」「当てはまらない」のうち、「当てはまる」と「どちらかといえば当てはまる」を合わせた割合で比較した。

① 質問紙調査(a)(b)について

授業の前後で比較すると、(a)「クラスのみみんなで話し合って決めたルールは絶対に守る(第2学年)」が5.1%増加し(図9)、(b)「誰であっても、困っていたら助けたいと思う(第3学年)」が12.5%増加した(図10)。このことは、きまりの向こう側には人の思いがあるということ(第2学年)や、強さも弱さも持ち合わせた相手を肯定的に受け止めること(第3学年)など、生徒が道徳的価値を理解し、自分の生活の中に生かしていこうとする意識の高まりの表れであると考えられる。

② 質問紙調査(c)(d)について

(c)「人が見ていない状況では、悪いことをしていたかもしれない(第2学年)」では15.4%増加し(図11)、「相手の立場を考えずに、悪口を言っていたかもしれない(第3学年)」では、18.3%増加した(図12)。このように、授業の後において意識の数値の割合が増加したのは、事前の調査のときよりも、今までの自分を深く振り返ることができたためと考える。生徒たちは学習の中で、「遵法、社会の秩序と規律(第2学年)」や「人間愛、思いやり(第3学年)」について、自分との関わりで考えてきた。また、本時の学習に関わる情報モラルの知識も理解することができた。学習前には振り返りが浅く、インターネットを利用していないときの自分や、限られた範囲での自分しか見つめることができていなかったが、学習を通して、インターネット利用の中でルールやきまりを守っていなかった自分や、直接悪口を言うてしまうことはなくても、思いやりのない書き込みをしていた自分などにも気付くことができた。このように、事後に数値の割合が増加したのは、

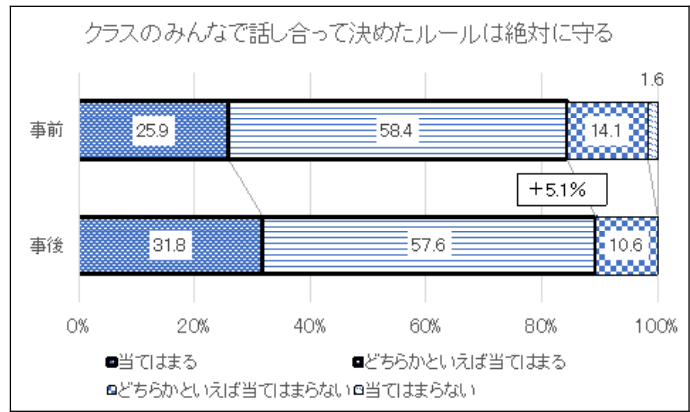


図9 質問紙調査(a) (第2学年)

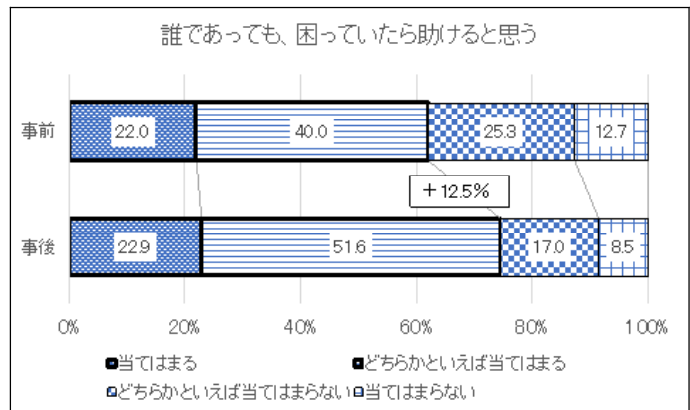


図10 質問紙調査(b) (第3学年)

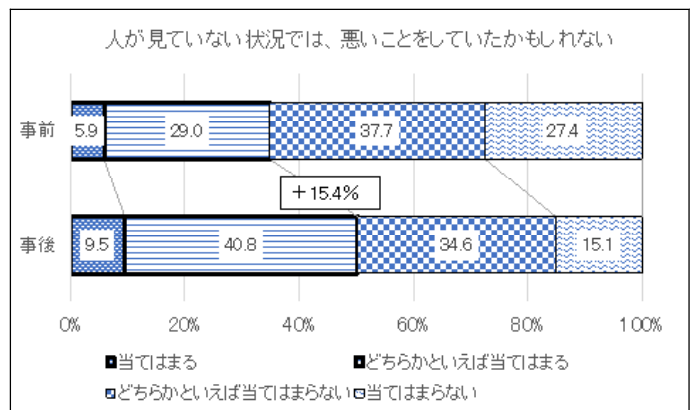


図11 質問紙調査(c) (第2学年)

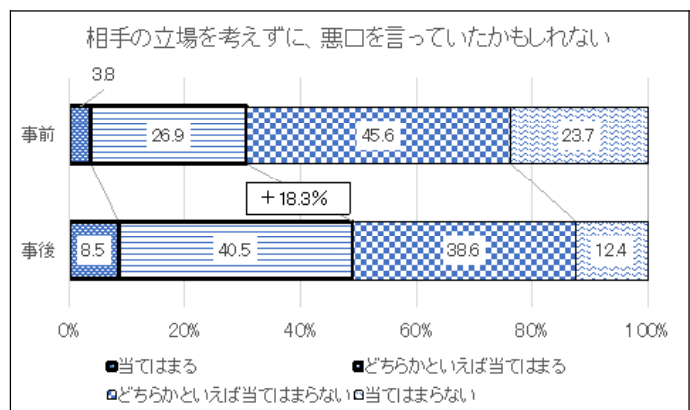


図12 質問紙調査(d) (第3学年)

ねらいとする道徳的価値を視点として、情報モラルに関わる内容についても自分自身を深く振り返ることができたことの表れであると考えてる。

(1)から(3)のように、生徒のワークシートの記述や自己評価、授業前後の質問紙調査の結果を見ても、生徒の道徳的価値の自覚は深まったと考える。その要因としては、生徒の身近で起こり得る情報社会の課題を題材とした資料を扱ったことで、生徒が内容を自分事として捉えて考えられたということ。特に、多くの生徒が利用している動画共有サイトについて触れたことや、無料通話アプリをイメージした資料提示が有効であったと考える。また、指導のポイントを示した教師用指導資料によって、情報モラルの知識についても触れることができた。資料のできごとをより深く理解するとともに、ねらいとする道徳的価値を視点にして、情報モラルに関わる部分で自分自身を振り返ることができた。さらに、ワークシートでは、ねらいとする道徳的価値について深く考えさせたい中心発問についてと、道徳的価値に関わっての自分自身の振り返りについてのみ書くようにした。このことによって、現在の自分自身を道徳的価値と関わって把握することができ、感じ方や考え方が文章化によって明確になり、他者と比較して客観的に認識することができた。このような取組によって、生徒の道徳的価値の自覚は深まったと考える。

以上のことから、「情報モラル自作資料集」を作成し、中学校道徳の時間に活用することは、生徒の道徳的価値の自覚を深める上で有効であったと考える。

2 「情報モラル自作資料集」を活用した授業によって、道徳的価値の自覚を深める指導の充実が図られたか。

実践後、授業を参観した研究協力者に聞き取りを行った。「情報モラルを扱った道徳の時間の進め方がよく分かった」「情報に関する知識について、生徒に伝えることが精選されて示されているので、安心して実践できそうだ」などの感想を得た。

このように、教師の肯定的な意見が得られた要因としては、動画共有サイトについてのことや、スマートフォンの無料通話アプリによるメッセージのやりとりのことなど、生徒の身近で起こり得るできごとを扱った読み物資料・提示資料を用いたことや、ねらいとする道徳的価値を明確にした授業の流れができていたことが考えられる。また、情報モラルの知識について、生徒に伝えるべき必要最小限のものを教師用指導資料に示したことで、情報モラルを扱った授業に不安を抱いていた教師も、自信を持って授業ができると感じられたからであろう。

このように、授業実践を参観した研究協力者の聞き取りから、「情報モラル自作資料集」を活用した学習活動を展開することは、道徳的価値の自覚を深める指導を充実させる上で有効であったと考える。

- ・道徳の時間で情報モラルを扱った授業の進め方がよく分かった。
- ・資料で扱っている情報技術が、生徒の実態に合っているものなので、身近な出来事としてと考えられていた。
- ・情報に関する知識について、生徒に伝える内容を明確に示しているので、安心して実践できそうだ。
- ・展開後段では、道徳的価値と自分とを情報に関わることで振り返らせており、道徳の授業で情報モラルのことが指導できている。
- ・インターネット利用に個人差があり、各学年でいつ授業をするか検討する必要がある。

授業実践を参観した研究協力者からの意見や感想

VI 研究のまとめ

1 成果

○ 生徒にとって身近な情報社会の課題を題材とした読み物資料・提示資料、授業の進め方や情報モラルの知識などを示した教師用指導資料とワークシートからなる「情報モラル道徳資料集」による授業によって、生徒の情報モラルに関わる道徳的価値の自覚を深めることができた。

- 「情報モラル自作資料集」によって、道徳の時間に活用する資料が充実し、道徳の時間としての授業展開や、生徒に伝える情報モラルの知識を明確に示すことができた。本資料集の活用により、生徒の情報モラルに関わる道徳的価値の自覚を深める指導の充実を図ることができた。

2 課題

- 「情報モラル自作資料集」を活用することで、多くの生徒が情報モラルに関わる道徳的価値の自覚を深めることができたが、日常生活でインターネットを利用していないために自分事として考えることが難しかった生徒もいる。授業の中では、将来携帯情報端末などを扱うであろうということで考えさせてきたが、クラスの実態に合わせて補足説明を増やすことや、SNSの疑似体験を取り入れることなどの工夫が必要である。そうすることで、生活経験の差が小さくなり、資料の内容を身近なできごととして捉えやすくなるを考える。また、技術・家庭（技術分野）や他教科等と連携を踏まえた実施など、意図的な支援が必要である。
- 読み物資料・提示資料について、無料通話アプリでのやりとりや、動画共有サイトについてなど、生徒のインターネットの利用形態に合った内容を扱い、大型画面で提示できるデジタル資料を用いることで意欲を高めることができたが、情報技術は常に新しくなっていくので、自分事として考えられるように、生徒の実態に合わせて修正していく必要がある。

Ⅶ より良い実践に向けて

本研究においては、作成した「情報モラル自作資料集」の有効性について、生徒のワークシートへの記述や事前事後の質問紙調査、研究協力者からの聞き取りなどから確認することができた。今後も生徒の情報モラルに関わる道徳的価値の自覚を深めるためには、各学年2編ずつ作成した教材を、中学校3年間の見通しを持って活用する必要がある。道徳の時間の各学年の年間指導計画を作成するときに、各中学校の生徒の実態に合わせて適切に配置して実践するとともに、授業後に保護者からの意見・感想を得るなど、家庭の参画意識を高め、連携を強めていくことで、生徒の道徳的価値の自覚を深め、道徳教育の目標である道徳性を養うことつながっていくのではないだろうか。

<参考文献>

- ・文部科学省 『中学校学習指導要領解説 道徳編』（2008）
- ・赤堀 博行 著 『道徳授業で大切なこと』 東洋館出版社（2013）
- ・赤堀 博行 編著 『道徳授業の定石事典 ―確かな指導観に基づく授業構想― 高学年編』 明治図書（2012）
- ・文部科学省 『教育の情報化に関する手引』（2010）
- ・社団法人 日本教育工学振興会 『すべての先生のための「情報モラル」指導実践キックオフガイド』（2007）
- ・国立教育政策研究所教育課程研究センター 『情報モラル教育 実践ガイダンス』（2011）
- ・株式会社情報通信総合研究所 『文部科学省委託事業「情報化の進展に伴う新たな課題に対応した指導の充実に関する調査研究」情報化社会の新たな問題を考えるための教材～安全なインターネットの使い方を考える～指導の手引』（2014）

<担当指導主事>

小熊 良一 福島 桂